

甲斐黄金村・ 湯之奥金山博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡—中山金山

No.110

2025.1.6



2025年スタート！ 本年もどうぞよろしくお願ひします

今年度はあと三か月残したなかで、なんと約24,500人ものお客様がご来館くださっています(例年比+6,500人)。多くのお客様が当館に足を運んでくださっていることにまずは感謝申し上げ、気持ちも新たに1月2日から開館スタートしました。2025年は、今期同様、もしくは超えるくらいのお客様をお迎えしたいところですが、決して低くないそのハードルは中途半端な思いで飛び越えられるものではありません。一日一日を大切に、一人一人のお客様に真摯に向きあう気持ちを失念することなく、この一年を突き進みたいと思います。

令和7年巳年の年頭にあって

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 信藤祐仁



撮影：信藤祐仁

令和7年（2025）新年あけましておめでとうございます。皆さんとともに無事に新しい年を迎えることができました。甲斐黄金村・湯之奥金山博物館職員一同、本年もこれまでと同様にどうぞよろしくお願いいたします。

今年は、十干十二支では「乙巳（きのとみ）」、干支では60年で一回りする第42番目になります。時刻では午前9時から11時の間の2時間、方角では南南東にあたります。「乙」は植物の成長でたとえると、「種子の堅い殻を突き破り、芽を出す状態」を表しています。「乙」の字は明治・大正期の成績表において「甲・乙・丙・丁」の4段階評価の2番目になります。甲の次の成績であって字の本来の意味からすると、劣るというイメージではありません。

今年はへび年です。金山博物館でも何回もアオダイショウが、出没しています。私が10月初旬に目撃した個体は、長さ1m50cmくらいで、体験室に隣接する山裾にいました。一昨年と同じ個体らしきものが、駐車場を横断するのを目撃しております。当館の主で守り神であろうと巷ではささやかれています。



博物館の主のアオダイショウ(2024/10/6)

皆さん蛇は好きですか？手足がなくニョロニョロと進むさまは、あまり現代人には好まれ

ておりません。しかしかつては、脱皮をして生まれ変わって成長すること、冬眠して春にはまた地上に姿を現す生命力の強さを持ち「再生・復活・不死」を象徴している縁起の良い生き物として認識されていました。また、マムシのように一噛みで人を死に追いやる殺傷能力があることから、縄文時代人には畏れられ神格化されていたと思われ、山梨県を中心とする縄文時代中期の土器の文様によく登場します。



2006年、身延町和田の圃場整備に伴う発掘調査が実施され、縄文時代中期の住居跡が検出

されました。この住居跡に埋設された炉体土器は、胴部に蛇の文様が描写されています。抽象文ともいわれますが、粘土紐を貼り付けて蛇を表現しています。蛇に関しては、現在でも財産を守りお金がたまる蛇皮の財布や医学、水の守り神としても信仰されています。手足が無いさまは男根を彷彿とさせ、生命のシンボルとして崇められてきたとされます。

最後に蛇は弁財天の使いとされています。巳年が皆様にとってたくさんの福を呼び込む良い年になりますよう、お祈り申し上げます。



信藤館長撮影の一枚が山梨県山岳連盟のカレンダーに採用されました



中白根山でのブロッケン現象 盟カレンダーの一枚として採用

されました（上写真）。ブロッケン現象は朝や夕方など太陽の光が人の背後から差し込み、霧や雲がスクリーンとなって虹色の光の輪が映し出される現象です。ヨーロッパでは「ブロッケン妖怪」と名付けられ、不吉なものとしてされてきました。一方、日本では人影のまわりに虹色の光が差すようすが阿弥陀如来のように見えることから縁起が良いものとされているそうです。

カレンダーは公式サイトからお求めいただけますので、ご興味がある方はQRコードからページをご覧ください。なお、当館エントランスのカレンダーで掲出していますので、当館へお越しの際は合わせてご覧ください。



■ 調査研究活動 01 9/12 ㊦ 資源・素材学会 秋季大会 於 秋田大学

調査研究活動の一環として春と秋の年2回、資源・素材学会の鉱業史部門において日々の活動を発表しています。秋季となる今大会は秋田大学での開催。秋田県は地下資源が豊富で、同大学は全国唯一の鉱山学科が設置された歴史も



あり、鉱山や鉱業に関する研究が盛んな地でもあります。今大会の鉱業史部門は、一般聴講者を交えて「第15回秋田県鉱山サミット～金をめぐる鉱業史～」と題して、同大学の鉱業博物館において実施されました。当館からは小松・伊藤の2人が参加し、それぞれ「北海道今金町カニカン岳の金挽臼について」、「茅小屋金山の炭焼窯遺構について2」をテーマに研究発表しました。

■ 調査研究活動 02 日本鉱業史研究会現地見学会 伊豆編

日本鉱業史研究会現地見学会が伊豆をフィールドに実施されました。当館では、湯之奥金山だけでなく幅広い地域の鉱山と比較研究のため、こうした機会にも参加しています。本見学会は、伊豆の中でも土肥地区と縄地地区をメインに、1日目は龕附天正金鉱や土肥金山にて見学を行った後、土肥図書館にて現地発表会が開催されました。九州大学の井澤英二先生や龕附天正金鉱の山田雄之さん、ジオパークの遠藤大介さん、元佐渡金銀山世界遺産推進室の小田由美子さんらの発表があり、研究会会員のほか、地元の人々も興味深く聴講していました。2日目は縄地地区に移動し、外から持越し鉱山を眺めたほか、現地に残される金挽臼について検討を行いました。



■ 調査研究活動 03 古文書教室 『金山史研究』

古文書は地域の歴史を今に伝える貴重な資料のひとつです。当館では、地域に残された文書を地元住民自らで読み解き、歴史を知る力をつけることを目標に、金山や鉱山を中心題材とした古文書教室を月に1回のペースで実施しています。講師は、当館の運営委員でもあり、貨幣史についてご指導をいただいている西脇 康先生。当教室では、昨年からの佐渡の小判所にまつわる文書を題材とし、解説に励んでいます。約40ページにも及ぶ資料の読み解きが12月で一区切りとなり、この成果は次の『金山史研究』にて掲載予定です。教室の皆さんは目下、読み解き作業と現代語訳に取り組んでいます。発刊のお知らせをお楽しみに。



■ 活動報告 01 11/14 ㊦ 令和6年度 第2回 博物館運営委員会

今年度の2回目の博物館運営委員会は、オンライン通話システムを採用して実施しました。初めての試みでしたが委員の先生方からも好評でした。会議では、上半期までの運営状況や今後の事業計画など、次年度に向けた課題とともにご審議いただきました。

■ 活動報告 02 11/16 ㊦ 第3回シン・サンポ 西嶋編

身延町の北西部に位置し、古くから和紙産業で有名な西嶋地区は、和紙以外にも歴史的に豊富な史跡がいくつも存在しています。青原院では、「吻竜」「鴟吻頭竜（しふんずりゅう）」の彫刻や、寄木造でありながら彩色が全体に残り、水晶の玉眼がはめ込まれた「木造十王尊坐像」について、ご住職にご説明いただきました。栄宝寺のご住職からも、お寺の由緒や所有する文化財の話をいただきました。西嶋に和紙製法を伝えた望月清兵衛の宝篋印塔形式の墓、紙の神様である蔡倫を祀った「蔡倫社」の存在から、和紙の製造に従事する人々から篤く崇敬されているようすが伺えました。広禅院、天神社もめぐりましたが、とくに若宮八幡宮ではイチョウの木が色づき見ごろを迎えており、秋の深まりを感じつつ地域の歴史に触れるよい時間となりました。

次回のシン・サンポは4月下旬を予定しています。散策地区や時間など詳細は次号や館公式HPにてお知らせします。気軽にご参加ください。



■ 活動報告 03 たくさんの学校に利用いただきました

当館では、遠足、社会科見学、県内めぐりなどの小中学校の校外学習のほか、職場体験、学芸員実習、インターンシップなど子どもたちが学ぶ場所を提供しています。展示室では湯之奥金山の歴史を映像やジオラマ、金山遺跡由来の資料から学び、砂金採り体験室では金山作業・



「汰りわけ」の実体験ができ、採った金は持ち帰ることができます。展示観覧と砂金採り体験セットの共通券利用がほとんどを占める学校利用。今年度もたくさんの学校にご利用いただきました。

学校プログラムの中でも、子ども達はたいへん楽しそうに取り組んでいます。ご利用検討の学校の先生方、まずはお気軽にお問合せください。

【令和6年度 学校関係団体利用状況】※12月まで

- 5月 ▶ 東桂中 47人、白根御勅使中 2人、葦崎西中 26人、双葉中 29人、城西高 35人、玉穂中 23人、白根巨摩中 19人、都留文科大学 4人、山梨大学教育学部附属特別支援学校高等部 12人
- 6月 ▶ 峡南教育研究会中部支会 14人、笛南中桜木分校 5人、下山小 14人、城北中 44人
- 7月 ▶ 南部町・八戸市交流事業 78人、町内企業でのインターン生 4人
- 8月 ▶ 聖心女学院 31人、四恩学園 50人、学習院中等部 57人
- 9月 ▶ 大里小 96人、甲府東小 47人、山城小 163人、新紺屋小 24人、相川小 47人
- 10月 ▶ 石和南小 34人、石和西小 34人、身延山大学 12人、中央区立有馬小 116人、石田小 41人、身延小 32人、身延愛育班 16人、国母小 62人、身延山大学 7人
- 11月 ▶ 駿台甲府中 12人、中央高校 55人
- 12月 ▶ 山梨県立大学 42人

■ 活動報告 04 今年度のメディア出演情報一覧

今年度も新聞、テレビ、ラジオなど多種多様なメディアにて紹介いただきました。これからも幅広く広報活動に取り組んでまいります。

日付	メディア媒体	内容
4/8	テレビ (NHK)	「偉人の年収 How much?」に情報提供
4/8	テレビ (テレビ朝日)	「スーパー」チャンネル」で当館と砂金採り体験の紹介
4/14	テレビ (テレビ朝日)	「ナニコレ珍百景」で砂金甲子園のようすが事例紹介で放映された
4/21	新聞 (山梨日日新聞)	山梨文化学園主催講義 (5/18) の告知
4/24	テレビ (テレビ朝日系列)	当館と砂金採り体験の紹介
4/28	雑誌 (『週刊新潮』5/2号)	「GW におすすめのおもしろ博物館特集」
5/6	新聞 (山梨日日新聞)	県内 GW 特集で砂金採り体験室の紹介
5/19	新聞 (山梨日日新聞)	小松学芸員が講師を務めた山梨文化学園講座について
6/6	雑誌	『じゃらん家族旅行 関東・東北版』で博物館紹介
7/27	テレビ (NHK 甲府)	砂金掘り大会について
7/28	新聞 (山梨日日新聞)	砂金掘り大会について
8/11	テレビ (BS 朝日「暦に集う」)	砂金掘り大会について
8/12	ラジオ (YBSラジオ「うるさごぜん」)	砂金採り体験室について
9/4	新聞 (山梨日日新聞)	有料入館者 50 万人達成について
9/18	新聞 (山梨日日新聞)	体験料金価格改定について
9/15	新聞 (朝日新聞)	「戦国の甲斐に最初期の鉱山」で湯之奥金山が紹介
9/21	テレビ (BS フジ)	「パンサー尾形のどんぶり旅〜ニッポンのうまい! にサンキュー」で砂金採り体験が紹介
10/14	テレビ (UTY「スゴろく」)	”ココどこ?” コーナーの空撮映像にて当館が紹介
10/19	テレビ (びわこ放送)	夕方ニュース内で「ご当地キャラ博 in 彦根 2024」が取り上げられ、もーん父さんが大きく映し出された

もーん父さん活動トピックス

春秋の年2回、JR 身延駅や国道 52 号線沿いの飯富広場で行われる交通安全運動。反射材大使のもーん父さんは、2024 年もドライバーや通学途中の高校生に啓発グッズを手渡し交通安全を呼びかけました。

またご当地キャライベントが盛んな秋冬は、PR ステージやグリーティングを通して、全国的に珍しい金山に特化した博物館を紹介。砂金採り体験の楽しさもここぞとばかりに PR していますが、最近ではもーん父さんに会いに博物館に来館するお客様もずいぶん増えました。多くの方が博物館に興味を持ってお越しいただけるよう、これからも頑張ります。そんなもーん父さんの博物館情報やほのぼのな毎日は、X・Facebook で発信中です。



■ 9/28
ご当地キャラカーニバル in ぐんま 2024



■ 9/28
ご当地キャラカーニバル in ぐんま 2024



■ 10/19 ~ 20
ご当地キャラ博 2024(滋賀)

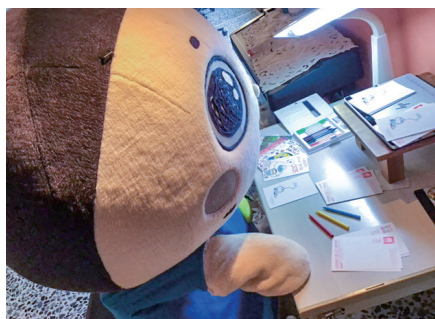


■ 11/23 ~ 24
世界キャラクターさみっと in 羽生 2024(埼玉)



■ 12/1
志木市民まつり(埼玉)

今年も、もーん父さんにたくさんの年賀状が届きました！



しもべ黄金の足湯からお知らせ

当館専用駐車場にある足湯は、下部温泉の源泉かけ流しで無料。地域住民の皆様はじめ県内外の来館者など、日々多くの方がご利用くださいますが、冬季の足湯は湯温維持のため、1 浴槽となります。加温なしですから冬季の湯温は33℃ほどです。みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

■ これからのイベント情報

2/1^①

博物館応援団Au会主催事業

第13回 金山遺跡・砂金研究フォーラム

当日スケジュール・発表内容等詳細は
公式HPをご確認ください(随時更新)。

要申込

- ・場 所：博物館 2 階 映像シアター
- ・定 員：50 人 ※定員になり次第、締切。参加無料
- ・内 容：野村敏郎、若月章弘「アラスカ砂金紀行（仮）」、仁木創太「砂白金は何歳か？一年代測定の実験」、堀 浩樹「多摩川中流の砂金産地（仮）」、広瀬義朗「中世砂金産地と寺院（仮）」らが登壇予定。
このほか、複数のポスターセッションも予定している。

春休み特別企画！

おしえて☆みやもん先生 化学実験教室

2025年3月29日(土) 9時30分～

1 時限目 9:30～10:30 「光の不思議」

(実験①「コップの中をカラフルにしよう！」 実験②「光を分けよう！」)

2 時限目 11:00～12:00 「キッチンで科学実験」

(実験①「水に浮かぶ1円玉」 実験②「油汚れはなぜ落ちるの？」)

〈持ち物〉1円玉6枚

3 時限目 13:30～14:30 「君も科学者！」

(実験①「振り子の不思議」 実験②「静電気の簡単な実験」)

〈持ち物〉10円玉3枚

○場 所：甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 多目的ホール

※見学スペースに限りがあるので、状況により、会場内に入る保護者の人数制限をさせていただきます
いただく場合があります。あらかじめご了承ください

○講 師：宮本一弘 先生（開成中学校・高等学校・理化学部顧問、NHK 高校講座「科学と人間生活」監修）

○対 象：小・中学生

○定 員：各時限とも15名まで ※要事前申込・重複参加可能

○参加費：各回200円（実験材料費として）

○共 催：公益社団法人日本化学会

申込方法

お問合せフォームにて承ります（1/10～）

- ①お子さんの氏名・学年 ②参加希望の時限 ③保護者氏名 ④ご住所
⑤お電話番号 を記載ください

お申込はこちらから▶



編 | 集 | 後 | 記

今号は初のPDF配信です。紙ではなくインターネットでの公開ということもあり、紙面をカラーでお届けしています。紙媒体で直接手に取っていただけないのは少し残念ですが、一方で活動のようすをカラーで紹介することで、よりその雰囲気が伝わるかと思います。今年もにぎわいの一年となることを願って編集後記とします。

(編集 K & I)

甲斐黄金村・
湯之奥金山博物館だより

第110号
令和7(2025)年1月6日

発行 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先
TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003
博物館HP▶<https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>
E-mail▶yunoking@town.minobu.lg.jp もーん父さん▶X & Facebook

